

東京バッハ合唱団 月報

[第583号] 2011年1月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 郵便振替：00190-3-47604
Tel：03-3290-5731 Fax：03-3290-5732
mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky3web.ne.jp/~bach/chor/

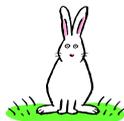
BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.583

January 2011

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

明けまして、おめでとうございます。



新年は、いつも新しい出発

大村 恵美子

みなさま、新年おめでとうございます。

クリスマスには、内外の多くの方々からグリーティングカードをいただきました。元旦には、今年もたくさんのお年賀状をお届けいただくことでしょう。心より御礼を申しあげます。12月中はまた、喪中のお知らせも何通かいただき、心を痛めました。ご遺族の平安が一日も早く訪れますよう、お祈りいたします。

2011年、うさぎの年。これは、偶然とはいえ、意味深いしるしです。世界の二極対立がやっと終局をむかえたと思ったら、ほっとする間もなく、またもや“四海の波高し”が迫ってきて、今では、「抑止力」には「核」をなどと真顔で叫ぶ声も強くなっています。王道を霸道に、容易になだれをうって落ち込んでゆくのが人類の本性なのでしょうか。



核には核を、ミサイルにはミサイルを、毒には毒を、という急傾斜から身を正し、霸道ではなく王道を、弱く

第105回定期演奏会

バッハ教会カンタータ名作選
日本語演奏

1月9日(日) 14:00 開演(開場 30分前)

石橋メモリアルホール(上野学園内)

< 曲目 >

カンタータ第111番《み心は つねに成し遂げらる》

カンタータ第68番《み神はこの世を かく愛したまえり》

カンタータ第147番《心と 日々のわざもて》

モテット BWV 230 《頌めよ主を 世の民こぞりて》

< チケット発売 >

前売券：3000円

- ・前売り券は1月7日(金)まで発売します。
- ・年始の予約申し込みは FAX か E-mail で(電話はご容赦ください)。枚数、お名前、ご住所、電話番号を明記。当日の受付にとり置きますので、その場でご清算ください。

FAX: 03-3290-5732 E-mail: bachchortokyo@aol.com

当日券：3500円

(当日券は、開場とともに発売開始します)

いずれも全自由席。子ども同伴室もあります

小さいうさぎでも、同じような被造物としての生命の確保を貫き通す方向に強くシフトする。危機的な状況を何度も切りぬけながら、私たちの小さな合唱団が、来ないよいよ創立50周年を迎えようとする姿が重なります。

新年早々の105定演(1月9日)、フォーカスはまさしく「平和」です(alle Heiden, alle Völker 世の民こぞりて)。そして年末の106定演(12月3日《口短調ミサ曲》)のフォーカスも同じく「平和」なのです(dona nobis pacem 平和をわれらに)。



昨今は“平和主義者”ということ、奇妙なことに、過激で不服従のアナーキストのように怪しまれがちにもなっていますが、こんな倒錯がまかり通るような事態は、やはり日本という国が、覇権トップのアメリカに、無思慮かつ無気力に65年間も隷属してきたせいでしょう。日本は、もっと生き方そのもので、他の国々を制し導く存在にならなければ。世界の警察官ではなく、小さな“うさぎ”でありながら、善意と誠実をまわりに伝播させ、悪意と破壊をぶちこもうとする相手でも、暴走できなくするような、モラル的な村八分の厳しさをつくり出す存在にならなければならないのです。口をついて出るのは、生の讃美と感謝のみ。こじれ、もつれ、エゴのぶつかり合いの現実を、寛容と忍耐と協力で、摘みとってゆく前衛として頼られる国になるのです。



キリスト教では、神の“小羊”がその象徴となっていますが、今年の“うさぎ”もそのたくいと思なしてもよいでしょう。ちなみに、わたくし個人の干支(えと)は“羊(未)”。星座は“魚”です。これらの小さな存在に、意識下ではずっと影響されてきたかも知れません。

世の“うさぎ”族(“羊”族も、“魚”族も)のみなさんも、わが世の春を謳歌して、愚劣な破壊と殺し合いに対しては渾身の力を傾ける一年にしてゆきましょう。平和は、戦争以上に大きなエネルギーを必要とするもの。傍観はゆるされません。おそろおそろの“おめでとう”ではなく、全身をゆるがす“おめでとう”で新年に立ち向かひましょう。(主宰者)

初舞台のクリスマス音楽会

村山 英司(団員;バス)

世田谷平安教会は旧軍隊の弾薬庫跡地に誕生し、2012年には60周年を迎えようとしている歴史ある教会です。昨年11月に新しい礼拝堂が献堂され、外見は地味ながら中はモダンで改装前からのステンドグラスを取り込み、天井へ抜けるような響きの美しい会場でした。

12月5日、日曜日の午後の暖かい日射しの中、開始前の少しざわついた教会内には、バッハの無伴奏チェロ組曲が静かにながれ(本日出演の宮城健氏による。健氏はバス団員・宮城幸義氏ご子息)聴衆はもとより我々演奏者側も期待に胸ふくらます開会のファンファーレのように響いていました。

演奏会はモテット(BWV230)から始まりました。少し傾斜した天井へ向かって声が昇ってゆくように感じられる素晴らしい音響で、練習では少し苦しそうだったソプラノの高音も美しく鳴っています。ピアノはもちろん、フルートとチェロの独奏も素晴らしい効果です。曲目はカンタータ147番(抜粋)へと進み、その冒頭の合唱は私にとってバッハとの出会いの曲です。

1970年、仙台のバロック専門の喫茶店「無伴奏」で、初めての一人暮らしにも慣れた頃、初めて足を踏み入れた薄暗い地下で鳴っていたのがこの曲でした。会話禁止の店内では祝祭的なトランペットが響き、合唱のかけ合いも楽しく聴きました。どういう訳か有名なコラルは印象に残っていません。見わたすと演奏中の曲のジャケットが置いてあり、アルヒーフのリヒター盤でした(たぶん当時は、これしか出まわっていなかった)。クラシックは以前からひととおりに聴いていましたが、バッハを特に意識していませんでした。探せば同好の士はいるもので、どっぷりと浸かりました。特にリリシズムにあふれたグールドの鍵盤曲や、ブリュッヘンなどの古楽器の演奏には惹かれました。

それから何十年も経て、たまたま杉並区の広報で知ったヨハネ受難曲の演奏者募集に応じ、「めくら蛇に怖じず」のままに何とか歌いきり、満足感と同時に歌いきれなかった何かを感じもやもやしていた頃、「口短調ミサ曲集中練習」の新聞記事に、これではないかと応募しました。正直に言えばドイツ語は苦手なので日本語でなら何とかとの意識もありました(今回の原詞はラテン語)。ところが、そこは合唱歴云十年という方々ばかりで、なんと場違いなどは思いながら、「声がしっかりしている」等々のおだてにもならないおだてに乗って生来のお調子者の地を発揮し、8月下旬には以前の合唱団は辞めて東京バッハ合唱団にお世話になることを決めていました。

聞き覚えのないモテットでは、楽譜を見てもどこを歌っているのやらの置いてきぼり状態、147番の冒頭合唱曲も聴くと歌うのでは大違い、音程が難しく動く曲です。



写真：ステンドグラスから暖かい日射しがふりそそぐ礼拝堂。12月5日、世田谷平安教会(金澤亜希子さん提供)

クリスマス音楽会

2010年12月5日(日)14:00開演
日本キリスト教団 世田谷平安教会礼拝堂

<プログラム>

1. モテット《頌めよ主を 世の民こそぞりて》
2. 教会カンタータ第147番《心と日々のわざもて》抜粋
3. 讃美歌《天のかなたから》(「讃美歌21」246)
4. 讃美歌《きたり 聞けよ み告げを》(「讃美歌」104)

<演奏者>

フルート：山田 恵美子
チェロ：宮城 健
ピアノ：内山 亜希
合唱：東京バッハ合唱団
指揮：大村 恵美子

<主催>

日本キリスト教団 世田谷平安教会

さらに、あの朗々としたバスのアリアを、立たされて歌うはめになるとは想像もしませんでした(合唱団バス声部による斉唱)。大あわてで肉食系に変身し(以前は草食系というよりは肉食系?)CDをひたすら聞き込み、何とか形だけは間に合った程度での初陣でした。

さて、カンタータ147番では最後のコラル以降は会場からの歌声も加わります。そして最後の讃美歌104番では、子ども中心の器楽隊も華やかな彩りを添えました。初冬ながら暖かな日射しに恵まれ、文字どおり明るくゆったりとした音楽空間にバッハの朗々かつ艶やかな音色と声色が響きわたり、あまりの天国的な響きのためか熟睡してしまうお子さんまでいたほどでした。「とにかくバッハが鳴っていれば、満足でうれしいのです」とある方がおっしゃっていたとおりです。

数年前には、まさかバッハを歌うようになるとは思いませんでした。歌い終わった充実感と高揚の中(ほろ酔い加減でもありましたが)合唱団での初舞台を無事、何とか終えました。了

創立 50 周年に備える 記念ファンドを

大村 恵美子

東京バッハ合唱団 < 創立 50 周年記念ファンド >

- ・ 目的：団運営の安定を図り、記念事業を助成する
- ・ 基金の目標額：500 万円
- ・ 募金単位：1 口 1 万円 × 500 口
- ・ 募金期間：2011 年 1 月から 2014 年 12 月

来年 2012 年 7 月 1 日に東京バッハ合唱団は、創立 50 周年を迎えます。そして早くも本年からは、12 月の《口短調ミサ曲》日本語演奏初演を皮切りに、3 シーズン（4 ヶ年）にわたる記念企画「バッハ 4 大合唱作品 [日本語] 連続演奏」をスタートさせようとしています（本紙 4 ページ囲み、など参照）。

東京バッハ合唱団が活動を始めた半世紀前、まだわが国に「バッハ合唱団」を名乗る団体は他になく、まさにこの名前で演奏をつづけていました。今は日本中の多くの都市で、どれほど多くの「バッハ合唱団」が活躍していることでしょう。隔世の感があります。

その創立の当初から、私どもは、活動の中心を教会カンタータに据え、日本語訳詞による演奏をおこなっています。「教会カンタータ」という、当時も今も、知る人の少ないジャンルをとり上げるのは、このジャンルがバッハ音楽の真髄であるからにほかなりません。

今日いたる所に、バッハを演奏する合唱団が誕生し、しかも教会カンタータを中心にレパートリーを組んでいるところも少なくありません。私どもの 100 回を超える定期演奏会と、やはり 100 数十回の各地の礼拝堂などをお借りしたコンサートで協演したソリストや奏者は延べで数千人、またそれらの会場に足を運んでくださった方々は数万人に満たないかもしれませんが、確実に、各地各ジャンルで、カンタータ演奏と鑑賞のコアの部分を構成してくださっています。

ただし、日本語演奏への関心の低さは蔽うべくもなく、努力がまだまだ功を奏していないことは認めざるを得ません。さいわい最近の 10 年間に、バッハ・カンタータの日本語訳詞つき楽譜の出版を実現させ、代表曲を中心にすでに 62 曲の楽譜を世に出しました。これは、ドイツの楽譜出版老舗（バッハ同時代の創業！）ブライトコプフ社の格別な配慮によるもので、底本の使用を許可してくださっています。きっと次の半世紀が経過するころには、カンタータの日本語演奏を試みるグループが 100 団体、200 団体と競い合っただけの名演を聴かせてくれることでしょう。

半世紀の長きにわたって、これほど変わらぬ内容を貫いて存続できたのは、多くの方々の支援と幸運の賜物としか言いようがありません。が、内実が平坦ではなかったことはご想像いただけたと思います。創立期には青年だった団員たちも主宰者も、これまで演奏会ごと、事業ごとに、収支つづのうように全身の努力を傾けつづけてまいりまし

たが、今後はその成果を活かしつつ、幾分でも見通しのきく、安定した将来に変えられないものかと考えています。

ひとつの演奏会開催には 200 万円以上の経費がかかります。また指導陣への謝礼や練習会場費などの運営費は年におよそ 300 万円を要します。これらの経費を、50 名に満たない団員の会費や演奏会負担金でまかなっている現状です。これを補うべく年間 200 万円ほどの後援会収入があり、これが巨大な支えであったことは言うまでもありません。しかし、近年の景気低迷が多くの団員の経済状況にも、チケットの売れ行きにも影を落とし続けており、さらに団の歴史とともに私どもも歳を重ね、初期からの同志ともいうべき後援会員の方々も多くが現役を退き、あるいは鬼籍に遷られました。結果、演奏会、団の運営会計、さらには後援会の会計に至るまで赤字になっています。

このような厳しい状況下で、私どもは創立 50 周年を迎えようとしているわけですが、いま最も求められていることは、とりあえず赤字を解消し、さらには団員の財政負担を可能なかぎり軽減して、団員数を増やすことです（重い負担が入団のネックになっています）。

そこで、私は、標記のファンド（基金）を立ち上げ、個々の赤字を解消して、できるだけ今後に備えられるように対処したいと思ひ至りました。私の見通しでは、現状安定のために 200 万円を充て、50 周年記念企画への助成と将来への備蓄として、300 万円は残せるのではないかと考えています。

ほんとうに、この 50 年間の運営については、つねに山あり谷ありでしたが、オルガンの購入や楽譜出版への協力など、何度かの大きな節目のたびに、このようにして皆様への呼掛けによって、さらなる展望が開け、多くの実りにいたって、ここまで辿ってこられたのでした。

50 周年記念ファンドの募集期間は、本年元旦より、記念企画の 5 回の演奏会が終了する 2014 年末を期限としたいと思います。そのあいだに、ご自身をはじめ、団の内外・周囲の友人知人の方々、各地のバッハ愛好家・合唱ファンのみなさまの中から、500 名の 1 口 1 万円（何口でも）のサポーターを見出しただけのよう、集中的な努力を、新年早々から始めたいと思います。

東京バッハ合唱団の務めは、今後さらに重要になります。みなさま、ご協力をよろしく願いいたします。

- ・ ご応募の方法は、団員へのお手渡し、郵便振替、現金書留等ご自由にお選びください [銀行口座はありません]
- ・ 領収書をお届けいたしますので、住所とお名前、電話番号をくれぐれもお忘れなく。お名前の公表は致しません。
- ・ 経過は、随時「月報」にてお知らせいたします。

郵便振替：00190 3 47604 東京バッハ合唱団
（「記念ファンド」とお書き添えください）

東京バッハ合唱団
〒156-0055 世田谷区船橋 5-17-21-101
Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732
E-mail : bachchortokyo@aol.com

《口短調ミサ曲》日本語演奏へのお誘い

バッハを、日本語で歌ってみませんか？

練習開始は、1月10日。

当合唱団では、日ごろ、ドイツ語原詞からの訳詞上演をつづけていますが、50周年という大きな節目に当たり、ラテン語を原詞とする《口短調ミサ曲》の日本語演奏に挑戦することとなりました。

これまで、小ミサ曲やマニフィカトなどのラテン語テキスト作品を、日本語訳詞で上演してきましたが、盛儀ミサである《口短調ミサ曲》については、これまで原語での上演機会しかなかったため、当合唱団としても初演となります。「ミサ」本来の性格上、訳詞演奏自体がおそらくどの言語圏においても稀少な試みだと思われるます。

このたびは、「日本語によるバッハ」をより多くの方にも体験していただきたく、合唱参加をひろく呼びかけます。

練習は、第105回定期演奏会の翌日（月曜/祭日）より始まります。各練習場には、訳詞つき楽譜コピーが用意してあります。お気軽に見学いらしてください。

【月曜日】午後6:30～8:30、目白聖公会（JR山手線「目白」駅下車5分）…1月10日練習開始

【土曜日】午後3:30～5:30、世田谷中央教会（東急田園都市線「桜新町」駅下車4分）…1月15日練習開始

詳しくは、<http://www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/> 参照。または、事務局まで「合唱参加要綱」をご請求ください。

<後援会員からのお便り>

前回第104回定演（2010年6月6日、石橋メモリアルホール）のDVDが、バス団員・松尾氏ご子息（撮影）や同団員・宮城氏（制作）のご努力で出来上がり、遠隔の地の、あるいは外出ご不自由な後援会員の方々、日ごろお世話になっている方々にお届けすることができました。

さっそく多くの反響をお寄せいただきましたが、2編をご紹介します。

（当DVDご希望の方には、送料とも500円にてお領けします。事務局までご連絡ください）

花井鉄弥・友子様

（…）それにしましても、CDのクリアな音色に感嘆しておりますから、ほど経ず、わずかに12センチほどの円盤に、2時間もの鮮明な画像と音声収録できるということに驚くばかりです。

子供のころ、SPの針音の中から辛うじて音楽を拾っていた時代、雑音なく長時間、音楽にひたれるLPができたときの喜び、ステレオ、テープ、CD、それぞれのときを経てDVDへという音響技術の歩み、バッハ合唱団の歩みと期を一にするような50年間の進歩、時代のそれぞれに思い出をもち、絶え間なく聴く喜びに接してこられたこと、そして常にバッハとともにあったこと、本当に幸せであり、有難いことに思えます。

第105回定期演奏会 年始練習/本番スケジュール

1月3日（月）臨時練習（目白聖公会、18:30 20:30）

7日（金）オケ合わせ（目白聖公会、18:00 21:00）

8日（土）"（"）

1月9日（日）演奏会（石橋メモリアルホール、開演14:00）

（係集合9:00、団員集合10:30、GP開始11:00、開場13:30）

バッハ4大合唱作品 [日本語] 連続演奏

<創立50周年記念企画1-5>

2011年<記念企画1> および年間予定

1月10日（月）《口短調ミサ曲》練習開始（目白聖公会）

15日（土）"（世田谷中央教会）

5月15日（日）特別演奏会（詳細未定）《口短調ミサ曲》後半

8月5日（金）～7日（日）野尻湖コンサート/合宿（2泊3日）

12月3日（土）第106回定期《口短調ミサ曲》（杉並公会堂）

（オケ合わせ：11/29、12/2。会場は両日とも荻窪教会）

2012年 2013年<記念企画2,3>

7月1日 創立50周年記念日

12月《クリスマス・オラトリオ》I-III、カンタータBWV71

春《マタイ受難曲》

2013年 2014年<記念企画4,5>

12月《クリスマス・オラトリオ》IV-VI、カンタータBWV76

春《ヨハネ受難曲》

純粹に音楽にひたるには画像はむしろ邪魔なように思えて、DVDには余り気をとめませんでした。今回は逆でした。会場準備、リハーサルに始まり、いよいよ演奏開始。先生の確固たる指揮、ソロの諸先生、合唱の皆様、合奏団、オルガン、それぞれに間近く明確精緻に表情、発声、指の動きが具現され、会場にあってとは別の感慨を味わわせていただきました。

（…）年が明けて1月の定期公演、さらに暮の《口短調ミサ曲》、大きな課題をひかえ、堅固に、着実に、多々かさなる困難を踏みしめて進まれますように、先生、皆様のご健康を願っております。

西村清志様（小樽市）

DVD、どうもありがとうございました。CDでは演奏を通じて音楽しか鑑賞できませんが、DVDでは音楽だけでなく、全体をひとつのパフォーマンスとして楽しむことができました。

先生の指揮（たいへんリラックスされた自然な動きの中にも、的確なキレがあって小気味よく乗っていると感じました）のもとに、息の合った豊かな空気が伝わってきました。生演奏には及ばないでしょうが、それに近い“いいひととき”を過ごすことができました。ただひとつ注文があります。最後の演奏が終わったあとのシーンには、やはり指揮者のアップがあったら良かったと思います。